

第69回 維持管理研究会 議事録

1. 日次: 2016年12月15日(木)16:00-18:00

2. 場所: BCAO神田オフィス

3. 出席者(敬称略) 15名

小田、鮎川、金子、國貞、小林、澤田、清水、守護、菅谷、高橋、平川、柳谷、山下、葛西、中谷(記)

4. 研究内容

(1)シニアの安否確認手段について(小林さん質問)

参加各社(大手企業11社)の安否確認の基本的な考え方を説明した。またコンサル(2社)担当者から様々な企業の特徴について説明があった。

S社の安否確認システムを使用されている企業が多くあったが、発信基準(震度・地域など)や収集方法については、各社の特徴が現れており、参考になったと思われる。

また紙類の事前準備については、インフラ途絶を想定し、社員名簿や公的連絡先などは事前に印刷しておくべきである。

(2)BCM能力評価について(小田さん)

各団体から提供している評価方法、及びISO22325について説明した。

＜経産省HPより抜粋＞

事業継続能力評価指標

本事業継続能力評価指標は、目指す姿の実現に向けて、サプライチェーン全体で事業継続能力の理解を共有するための対話ツールとしての役割を担います。

本評価指標を通じて、サプライチェーンを構成する企業間で価値観を共有し、サプライチェーン全体の事業継続能力向上に取り組んでいただくことを想定しています。

なお、指標の内容は適宜見直していく予定です。

報告書

報告書 別紙2 企業アンケート ベンチマーク結果

報告書 別紙3-1 会社単位で評価を行う事業継続能力評価指標(ver1.1)

報告書 別紙3-2 製品・サービス単位で評価を行う事業継続能力評価指標(ver1.1)

報告書 別紙3-3 事業継続能力評価ハンドブック

報告書 別紙4 有識者ヒアリングまとめ

報告書 別紙5 企業ヒアリングまとめ

※詳細は下記URLを参照願います。

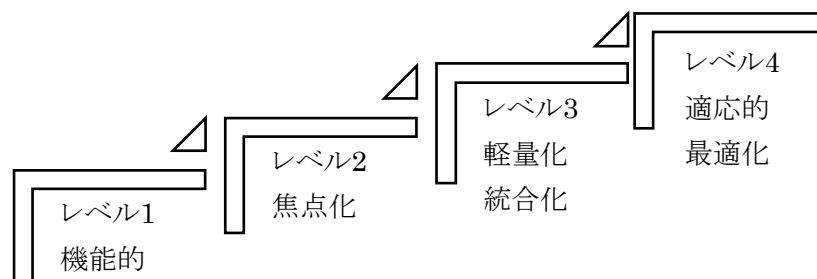
http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/bcp/index.html

<ISO22325の抜粋>

①アセスメントモデル

組織の緊急事態管理能力は四つの異なるレベルに分類される。

レベル1は緊急事態管理能力が最低限のレベルにあることを示し、レベル4はもっとも適応性があり最適化されたレベルの緊急事態管理能力があることを示す。



レベル1(機能的)の組織は、基本的な事前準備を実施し、基本的な対応能力を有する。その実践能力はインシデントの直後に見直されることがある。

レベル2(焦点化)の組織は、資源の需給バランスを最適化する詳細な計画を策定する。計画は、特定のインシデントに対応するための知識、技能、能力の形で構成され、定期的に更新される。

レベル3(測定化／統合化)の組織は、組織が改善を進め、継続的改善戦略を共有して、定量的な測定とアセスメントを促進するように緊急事態管理プロセスを設計する。組織は、共有された責任に関する迅速性と効率性を向上させるため、他の組織との統一を図る。

レベル4(適応的／最適化)の組織は、対応の前の準備のみならず、緊急事態管理のサイクル全体を考慮する。また、他の組織と連携および協力しながら、自らの緊急事態管理能力のレベルが適応的で最適化されていることを示す。

組織は、研究開発に取り組みし、制御不可能になりうる潜在的インシデントに関する先進知識を得るために技術を使うことができる。

②指標

組織は、以下の指標に基づいて、緊急事態管理能力をアセスメントしなければならない。

- a)指導者層と力量
- b)資源管理
- c)情報通信
- d)リスクアセスメント
- e)危機対応
- f)連携と協力
- g)緊急事態対応計画
- h)演習
- i)被害軽減

5. その他

次回研究会

2017年 1月25日(木) トッパンフォームズ様
クロスロードゲーム(予定) ……山下さん

以上